

もし“ヨブ記”がなかったら

このところ「ヨブ記」を読むことが多いようです。「聖書教育」誌の教会学校カリキュラム、また当教会の木曜集会でもヨブ記を読んでいます(担当・加藤牧師)。

皆さんはどのような感想をおもちでしょうか？ いろいろなことを考えさせられています。

さかのぼって想像します。聖書を各書編纂・編集したときヨブ記をどのように受け止めたのでしょうか？

ヨブ記の冒頭から驚かされます。神の使いたちが集まった時、そこに「サタンも来た」(1章6節)とあります。神はサタンに問われます。「お前はどこから来た」と。

「ほうぼうを歩きまわっていました」。どこでも出没可能ですという返事です。

次は逆にサタンが神へ問います。「ヨブが無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きているとおほめになります、それはあなたがヨブの家族や財産を祝福して守っておられるからですよ！」、「だれが利益もないのに信仰しますか?!」(1章9～10節)と。

このサタンの問いは地上の全宗教へ、信仰者全てへの問いです。

今、なぜあなたは信仰を続けておられるのですか？ということです。

(山下誠也)